

広島派遣研修に参加して

糸魚川中学校 2年 田口 柚希

私は祖母の戦争体験を聞いたことをきっかけにして、被爆した人にしか分からない苦しみや辛さを知るため、広島派遣研修に参加しました。初日の被爆体験講話では、被爆者である佐伯克彦さんご夫婦からご家族やご自身の体験談、原爆が投下された当時のお話を聞きました。特に印象に残ったのは、建物疎開中に被爆した学生のお話です。建物疎開とは空襲が起きたときに火が燃え広がらないよう防火体を確保するため建物を壊す作業のことで、主に13～14歳の学生が従事していました。当時広島市中心部で建物疎開が行われていました。そこには被爆したたくさんの学生が集まっていたそうです。自分と同じような歳の学生の被爆体験を聞き、苦しくなりました。また、こうやってたくさんの学生が命を落としたことを初めて知り、二度とこのような理不尽なことが起きてはいけないと改めて強く思いました。

平和記念式典では、事実を風化させず多くの人へ伝えていくことの大切さを学びました。また、平和への誓いにある「周りの人たちのためにほんの少し行動することがいずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか」という言葉が印象に残りました。これからは自分の行動を見直すだけでなく周りの人へ平和につながる取り組みを広げていき、少しずつでも平和へと向かって行けたらいいなと思いました。

平和記念資料館では、被爆前の広島の様子や被爆者の方々の遺品や絵、写真な

どが展示されていました。その中にあった学生の持ち物や、水筒や弁当箱から被爆前の平和な1日が始まろうとしていたことが分かり、平和の大切さをもの凄く実感しました。また、被爆者の方々が描いた絵や日記、手紙には当時の悲惨な状況や、生前の思いが綴られていて、胸がいっぱいになりました。

このような原爆で亡くなった方々の生きた証を見て、被爆した方々は原爆が投下されるその瞬間まで日常生活を送っていたということをもの凄く感じました。

8月6日、一発の原子爆弾で多くの人の命が奪われ、人生を変えられてしまいました。あの日の出来事をもう二度と起こすことのないよう終戦から80年が経った今、この事実を風化させず私達がたくさんの人に伝えていくことが平和への第一歩だと考えています。今後も広島で学んだことを友人や家族に伝え、平和について考え続けていきたいです。
